

豪 快 さ と 優 し さ 西表島の海に。



石垣島同様、WEB-LUEとしては初取材となる西表島。

石垣島が優しい女性的な海であるならば、
この西表島は、男らしいハードな海と女性的で優しい海のどちらもが存在する海と言ってもいいだろう。
中でもハードさの代表的なポイントが、西表島の南西約15キロに位置する、仲ノ神島、通称「オガン」の存在だ。

これからの夏のシーズン、群れや大物を狙うなら間違いなく、このオガン。

年間でもここに行けるのは、50日程度。

今回はそのオガンでのダイビングをメインに、西表島の全容を紹介していく。

群れあり、地形有り、癒しのサンゴ有り、そしてマクロあり。

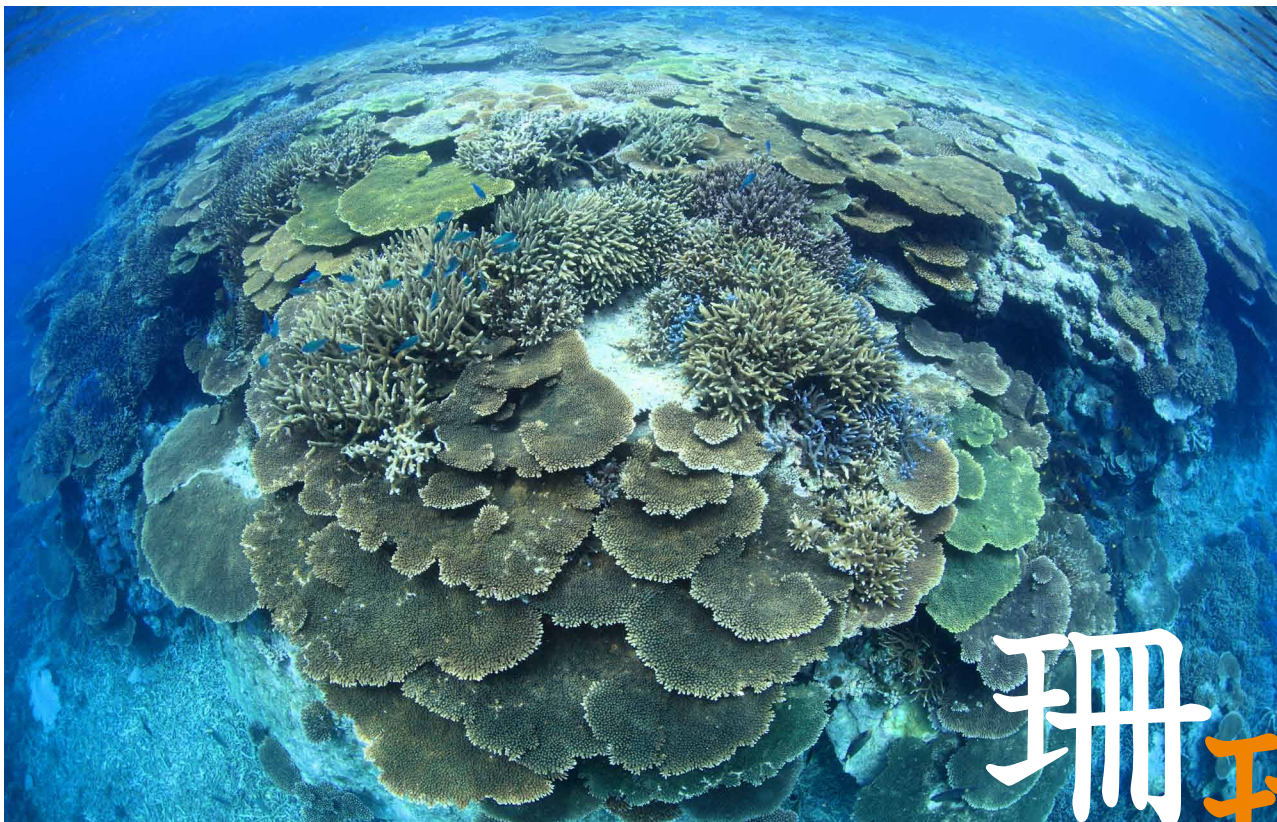
どんなダイビングでも楽しめるのが、西表の海の魅力。

そして、そんな西表の海を完全網羅しているのが、ダイビングチームうなりざき西表のガイドたちだ。

Special Thanks =ダイビングチームうなりざき西表

Photo & Text = Takaji Ochi

Design = PanariDeisgn



シークレットガーデンの浅瀬に群生するサンゴたち

珊瑚

Coral Reef

石垣島から、フェリーに乗船して約40分。フェリーは、西表島の西にある上原の港に到着した。人口5万人の石垣島から、人口2000人の西表島へ。島の大きさは沖縄では、本島について3番目の島から2番目に大きな島へ。なのに、人口が少ないのは、その多くが国有地だからと言う。

島には周遊道路は無く、今でも同じ西表島にありながら、フェリーでなくては訪れることができない集落も存在している。これには、自分もちょっと感動した。

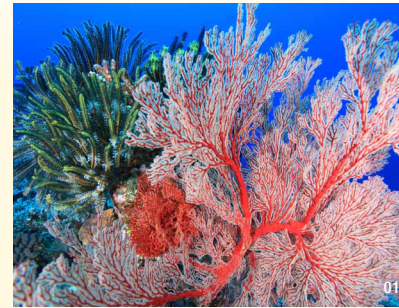
そんな島だからこそ、他の島に比べても、変わらぬ自然が残されている。それは海の中

も同じ事が言えるようだ。もちろん、ベストシーズンには多くのダイバーがこの島を訪れるのだとは思うけど。

この島にいます、邪念というものが無くなり、ダイビングの事だけしか考えない時間が過ぎて行く。それもあつという間に。

ダイビング初日、うなりざき西表のチーフガイドの曾我勲君が、「シークレットガーデン」と呼ぶオリジナルポイントに連れて行ってくれた。起伏のある丘に囲まれた湾奥。そこは、竜宮城のようにサンゴが群生する、そして、箱庭のように、かわいらしい海だった。

シークレットガーデンのサンゴに癒される



ボクに会いに来てね



01, 崎山アザミの水深15m付近には、イソバナが群生

02, その25m付近には、レアなオキナワサンゴアマダイ

03, Gスポットのサンゴに群れるアカネハナゴイ

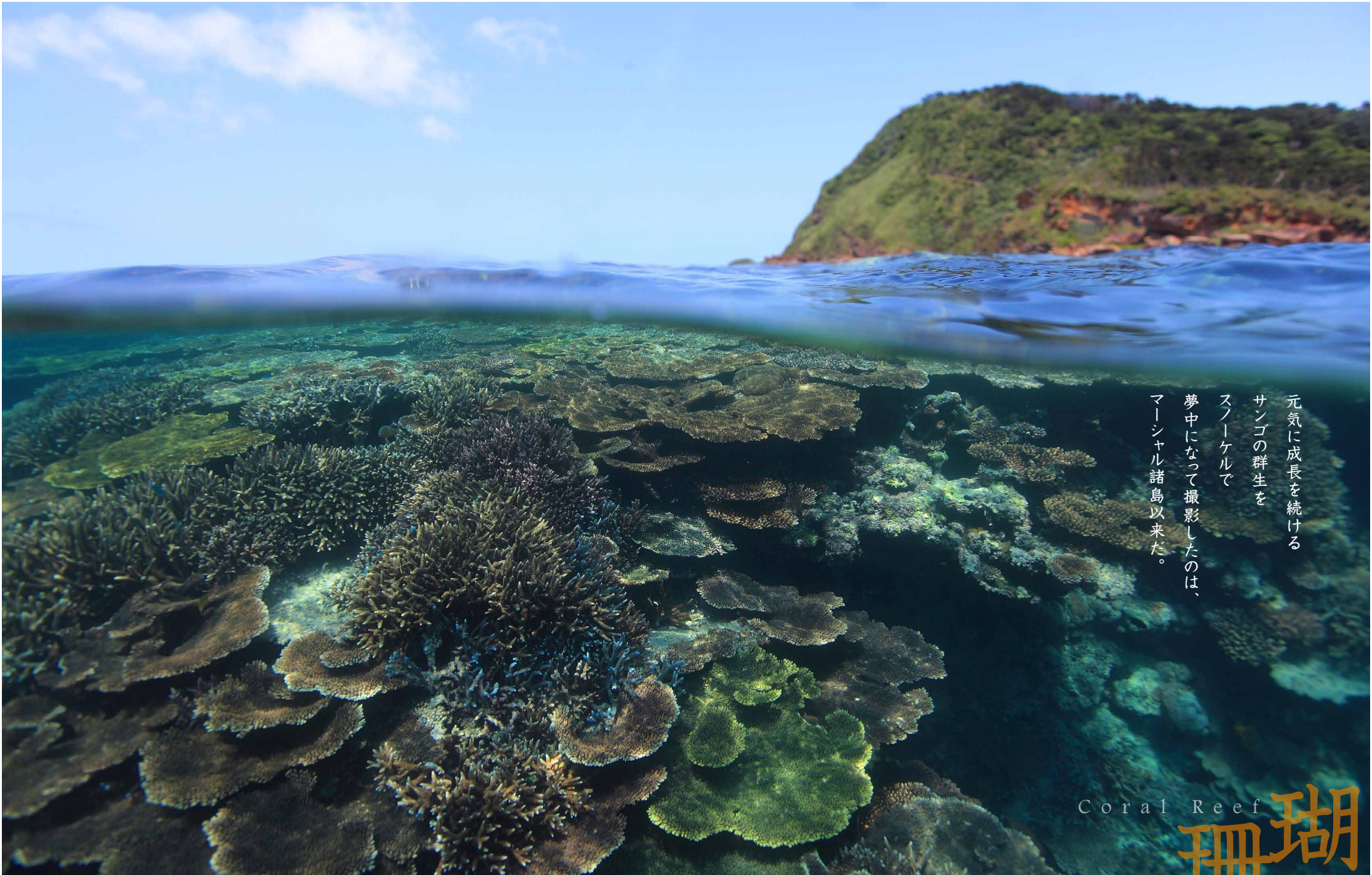
ダイビングポイントではあるのだけど、僕はランチタイムの休憩時間に、カメラハウジングを持ち出して、スノーケリングで浅瀬のサンゴを撮りまくった。こんなに穏やかで、しかもこんなに浅い場所で、元気に成長を続けるサンゴの群生をスノーケルで夢中になって撮影したのは、マーシャル諸島以来の事だ。「目で見る」だけでなく、スキューバ機材を付けて潜る深さでもサンゴを堪能できるのだけど、サンゴ本来の色や美しさを表現するには、このシークレットポイントのように、浅ければ浅い程良い。「そこはダイビングポイントじゃないじゃない

か」と思われるかもしれないけど、これだけ浅い場所のサンゴが美しければ、当然ダイビングするエリアだって美しさに決まっている。

自分は物事を、大げさに表現することは苦手なのだけど、日本の海のサンゴがこれだけカラフルで元気だということを、今まで知らずにいた事に、本当に後悔した。そう思いながらも、こんなに新鮮な気分してくれた、西表島のサンゴたちに感謝しながら、夢中でシャッターを切り続けた。マスクの中は、嬉しくてにやけっぱなしだった。天気も良かったし、その日1日、ずっとここにも良いと思った。

豪快さと優しさ 西表島の海に。

WEB-LUE 2011. Spring [Iriomote Island]



元気に成長を続ける
サンゴの群生を
スノーケルで
夢中になって撮影したのは、
マーシャル諸島以来だ。

Coral Reef 珊瑚

豪快さと優しさ 西表島の海に。

WEB-LUE 2011. Spring [Iriomote Island]

オガン、エントリー前には、入念にブリーフィングをする

うん、
ここが
オガンね



オガ

o g a n

とにかく群れ大物三味！
オガングでの
初ダイビング。

エントリー直後、360度
視界を埋め尽くしたウ
メイロモドキたち



01,日本では珍しいカムリブダイの群れにも遭遇

02,階段状の地形は、洞窟ポイントの深場にある

03,天馬崎ポイントで最後に遭遇したバラクーダの群れ



仲ノ神島、通称“オガン”があるから、西表に潜りに来るというベテランダイバーも少なくは無いという。本来は夏の時期にしか行けないポイントなのだけど、取材した4月頭の短い取材期間で、コンディションが良く、2日連続で潜りに行けた事は本当にラッキーだった。

外洋にほぼ東西に延びるこの小さな無人島の周辺には、潮が当たり、大物や群れに高確率で遭遇できるポイントが点在しているだけでなく、マクロ、地形なども楽しめる。透明度も抜群で、エントリー直後に包まれるブルーの濃さに、海と同化して、自分の身体がその中に融合していくような感覚を味わえ

る。吐き出されるエアでさえ、特別な物に感じて来る。そのエアにただ、包まれたいと感じる。そんなブルーだ。

しかし、そんなのんびり気分で潜れる程、何も無い海ではないのだ。“オガン”初ダイブとなった、天馬崎ポイントでは、エントリーするなり無数のウメイロモドキの群れの歓迎を受ける。360度、周囲を囲まれてどこにカメラのファインダーを向ければいいのか分からなくなった。

その直後に遭遇したのは、日本では絶滅危惧種とされている、カムリブダイ。しかも20匹程の群れ！まさか、日本でカムリブダイの群れに遭遇できるとは思わなかった。

豪快さと優しさ **西表島の海に。**

WEB-LUE 2011. Spring [Iriomote Island]

Information Link
<http://unarizaki.com/iriomote>

関連情報HPへ



地形のダイナミックさも見所の一つ

〃オガン〃初ダイブは盛りだくさんの群れや大物に歓迎された、最高のスタートだった。



砂地に意図して並べられたかのような飛び石状の丸い根が、日本庭園のような印象

Ogan オガン

しばらくして、巨大な四角岩の点在する不思議な地形を撮影しようとしたら、うなりざきのガイドの曾我君が、何かを発見。撮影を諦めてそちらに急行すると、巨大なオオテンジクザメが数100匹のテングハギモドキらを従えて悠然と泳いでいた。撮影しようと思ったが、距離がありすぎた。

激しい追走で、エアを消費し過ぎたので、しばらくは浅めに深度を取り、あまりよろよろせずに、曾我君について行った。すると今度は50匹程のイソマグロの群れに遭遇。極力激しく動かないように、アプローチして撮影した。

それが終わると、今度はケーブに入り、中で眠っていたネムリブカに遭遇。

そして、その後浅場の海底遺跡っぽい岩礁地帯を流して、最後に飛び石が砂地に点在する、日本庭園のような美しいポイントで、また撮影しようとカメラを構えた瞬間、またまた曾我君が120匹程のバラクーダの群れを発見してしまった。

発見してしまったというのは、もうそこで安全停止するかな、くらいにエアが少なくなっていたから。それでもバラクーダだから、深度も浅いので、皆で接近できる場所まで接近。目の前まで迫ったバラクーダを撮影し、力つきて浮上。

それにしても、“オガン”初ダイブは盛りだくさんの群れや大物に歓迎された、最高のスタートだった。



イソマグロたちが、悠然と頭上を通過して行った



見せるものは、まだまだあるよ!

豪快さと優しさ **西表島の海に。**

WEB-LUE 2011. Spring [Iriomote Island]

Information Link <http://unarizaki.com/iriomote>

関連情報HPへ

O g a n オガン

超豪快！
三の根、東の根



豪快さと優しさ **西表島の海に。**

WEB-LUE 2011. Spring [Iriomote Island]



Information Link
<http://unarizaki.com/iriomote>

← 関連情報HPへ

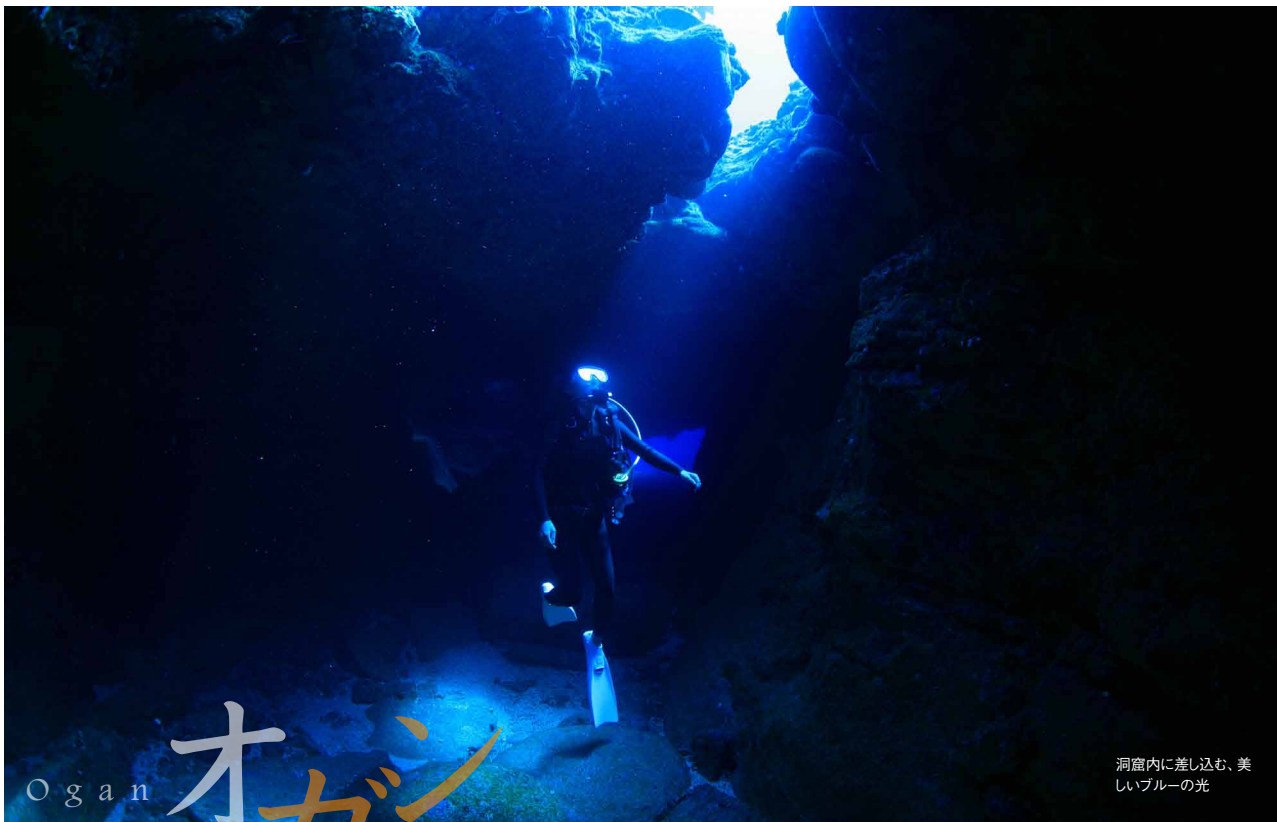


豪快さと優しさ **西表島の海に。**

WEB-LUE 2011. Spring [Iriomote Island]

Information Link
<http://unarizaki.com/iriomote>

← 関連情報HPへ



Ogan オガン

洞窟内に差し込む、美しいブルーの光

三の根、東の根
超豪快！

7カ所あるオガンのダイブポイントの中でも、豪快さを極めるのが、三の根と東の根。ダイバーの間でも「オガンに行ったら、絶対三の根と東の根に入りたい!」とリクエストがある程、最も人気のあるポイントだ。

オガンからボートで15分程離れた三の根という隠れ根。かなり広範囲に広がる根には、これまた良い感じの潮がかかり、イソマグロの群れや、カスマアジの群れが見られる他、ジンベエザメやタイガーシャークが目撃された事もあるという。

今回は、60匹程のイソマグロがかなり密にまとまって、流れに乗ってホバリングしてい

るところをカメラに押えた。撮影には至らなかったけど、巨大なナポレオンが、僕らと微妙な距離を保ちながら泳ぎ続けた。カスマアジは、少し時期が早いとのことで、大きなまとまりを見ることはできなかったが、GWから夏にかけては、きっと大きな群れが期待できるはずだ。

地 形的に、一番豪快なのは東の根。巨大な岩の壁のトップにつかまって、潮の当たる壁面に群れる魚群を堪能するために、潮が当たっている時は、激流に逆らってのダイビングになる。潜れるのは丁度壁面に潮が当たる下げの時間帯のみ。



ぼくたちがさがしてね



洞窟の外のガレ場で見つけたのは、卵持ちのキンチャクガニ(01)、カエルアンコウモドキの幼魚(02)、それにヒメメンコヒシガニ(03)

この日はそれほど激流では無いにしても、壁のトップに固定したアンカーロープにつかまりながらの潜行では、前にいるダイバーの吐き出したエアがもろにかぶさって来るほどに流れていた。それだけで、大物や群れが期待できた。

水 深17mの壁トップに到着し、エッジにへばりついて眼下を見下ろすと、そこにはヒメテングハギとテングハギモドキの巨大な群れが。つかまらなければいけない程の激流では無かったので、壁面を越えて、群れを撮影し始めたその瞬間、どこからともなく、無数のツムブリが僕を取り囲み、しばらく

暴れ回って、またどこかへ姿を消した。大物回遊魚の群れに取り囲まれたときの幸福感と興奮は、何度味わっても止められない。これこそ、ダイバーの特権だ。

オガンの洞窟ポイントでは、ケーブに差し込む青い光を楽しむとともに、18mの横穴を抜けた先にある、階段状の地形を見学。その後ガレ場で、卵を抱えたキンチャクガニ、ヒメメンコヒシガニ、カエルアンコウモドキなどのマクロを堪能。

群れ有り、大物有り、地形有り、マクロ有り。何でも楽しめてしまう「オガン」が、ダイバーに人気があることも納得が行く。

豪快さと優しさ **西表島の海に。**

WEB-LUE 2011. Spring [Iriomote Island]

Information Link
http://unarizaki.com/iriomote

関連情報HPへ

サンゴの根の上を悠然と泳ぐマンタ



Manta Ray

マンタ

マンタポイントでは
7匹のマンタが乱舞!



時には根の下で待っているダイバーの目の前まで接近してくれる

ふわふわ~



01



02

01, やまがちな西表の海岸線
02, 2匹のマンタが根を通過した

2日間の“オガン”ダイブの翌日は、西表島本島周辺を潜る。最初に訪れたのは、サンゴのリーフに亀裂が走り、スイムスルーの迷路のような地形が面白い、ブルーラピンス。この迷路、遊びで潜ったら、きっと相当に楽しそう。スキルが伴えば、この中で、水中鬼ごっこか楽しめそう。ここで、地形を堪能しながら、最後には浅いガレ場でマクロウォッチング。

曾我君が見つけてくれたのは、オランウータンクラブ、ピカチュウウミウシの愛称を持つ、ウデフリツノザヤウミウシ、トウモンウミコチョウ、ムラサキウミコチョウ、カンムリベラの幼魚、キンチャクガニなどなど。

マクロを堪能した後は、鹿の川、中の瀬ポイントでマンタ狙い。先に入っていたボートから5匹はいる!との情報を受けて急行。エントリーすると、こんもりと盛り上がった、サンゴの根がいくつもある、グランドキャ

ニオンのような地形の上をマンタがゆっくりと移動しているのが確認できた。それも、1匹ではない。あっちにも、こっちにも。数えると一度に7匹が自分の視界に確認できた。マンタのポイントにしては、透明度もめっちゃめっちゃいい。しかも、他にボートもいなくて、独占状態!カメラマンとしてのテンションは上がりっ放しだ。

こでのマンタは、3月から5月の春先が狙い目だとか。遭遇率は7~8割。しかし、それが夏になるとほとんど見かけなくなるそう。過去には最高8匹を確認した事があるそうで、今回はその数に匹敵する個体数だった。ここのマンタは石垣島のマンタスクランブルでも同じ個体が確認されているという。向うのシーズンは夏の終わりから、秋にかけてだから、時期によって、このエリアを回避しているのだろう。

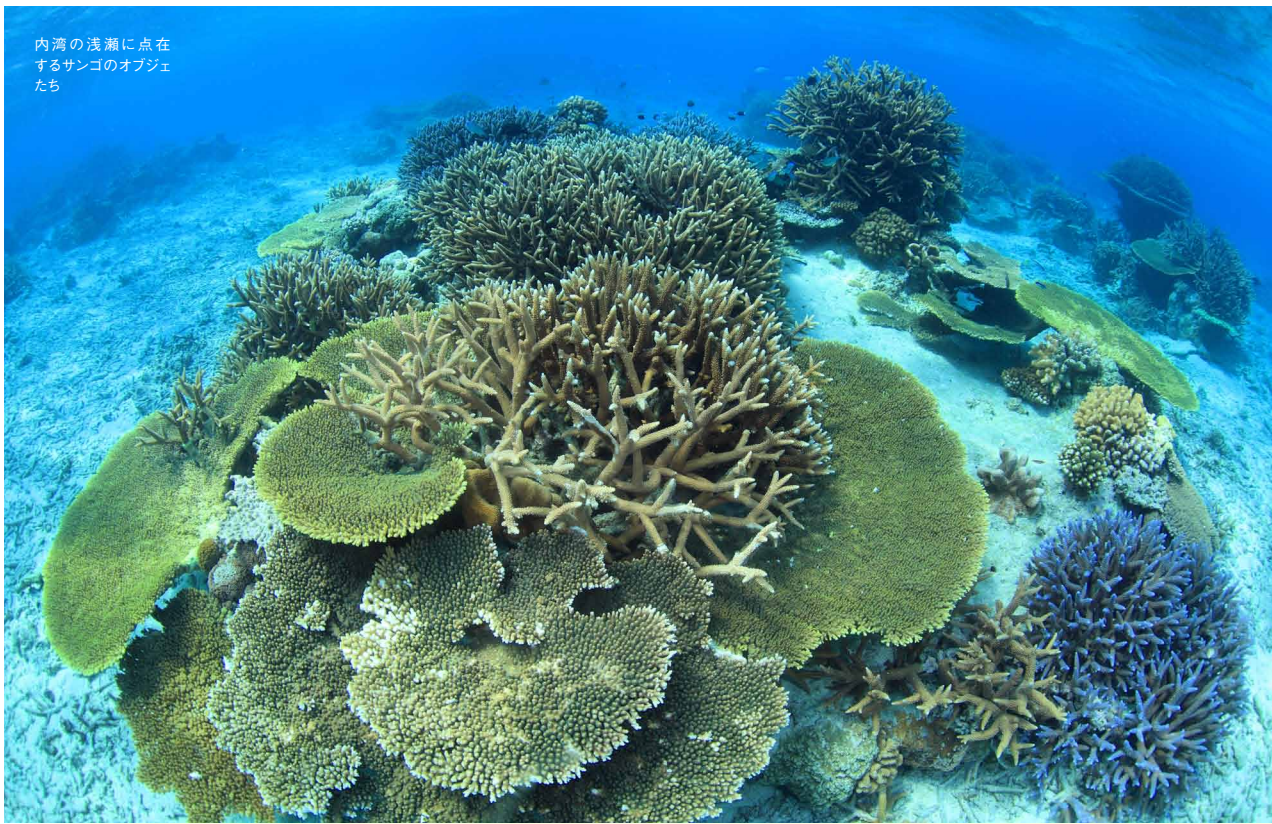
豪快さと優しさ **西表島の海に。**

WEB-LUE 2011. Spring [Iriomote Island]

Information Link
<http://unarizaki.com/iriomote>

関連情報HPへ

内湾の浅瀬に点在するサンゴのオブジェたち



自宅警備員
警戒中!



根性のある、オイランハゼ

じっくりマクロ 内湾で

前半で大物系を順調に撮影できたので、後半はマクロを集中して撮影することにしました。潜ったのは、Gスポット（名前の由来が気になったのだが、ポイント名を付ける当時、サザンオールスターズの「マンピーのGスポット」という歌が流行っていた頃だったかららしい）、外離れ南、Tsエリアなどの内湾。

流れも無く、穏やかなポイントが多いから、じっくりとマクロ撮影するのにおすすめのポイントが数多く点在している。マクロは写真で紹介。

短い滞在でも、様々なバリエーションに富んだダイビングが楽しめる西表島。今回の滞在では、コンディションにも恵まれ

て、取材は順調にすすんだ。しかし、それはコンディションのお陰だけでなく、うなりざきのガイドの多くが、若いにも関わらず、西表でのダイビングガイド歴が10年以上、または近くのキャリアを持ち、的確なガイディングや操船をしくれた事も大きかったと感じる。

多くのダイビングサービスで、オーナーガイドが一線が頑張る中、このうなりざきというサービスは、若くして、信頼感のある成長を遂げている多くのガイドがいることを実感させられた取材でもあった。



01, イトヒキテンジクダイ
02, バンダツノウミウシ



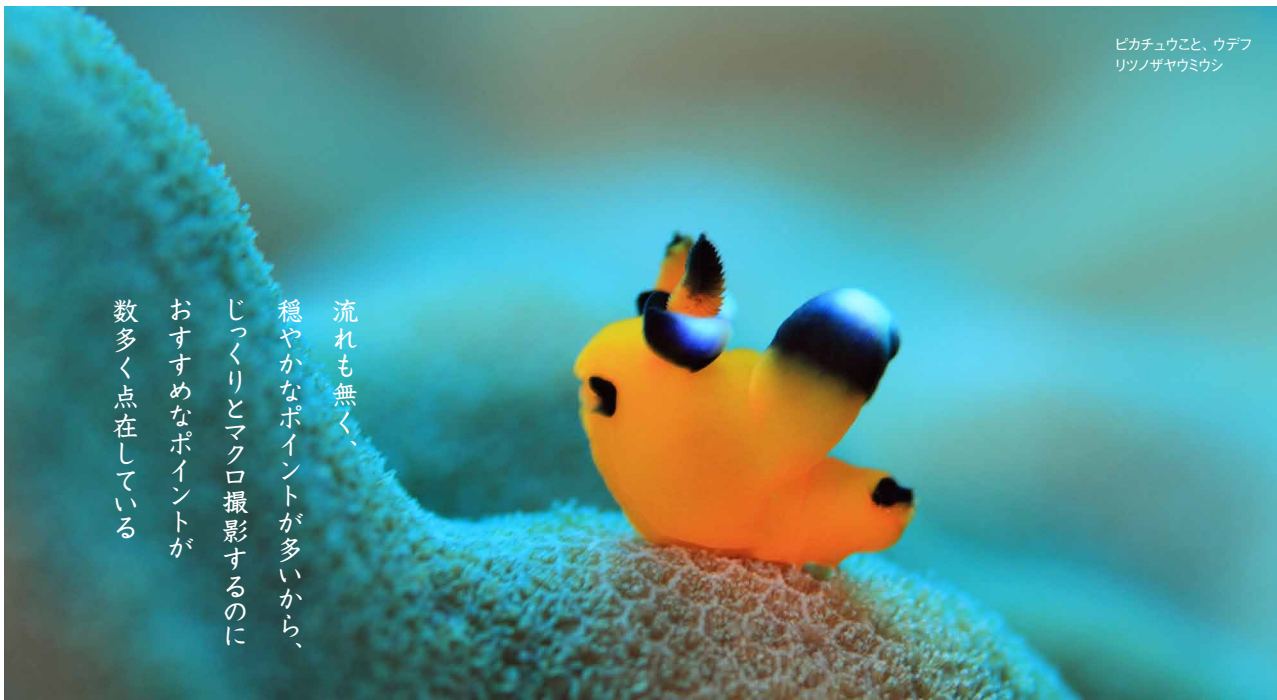
03, カンムリベラの幼魚
04, キイロサンゴハゼ



Micro マクロ

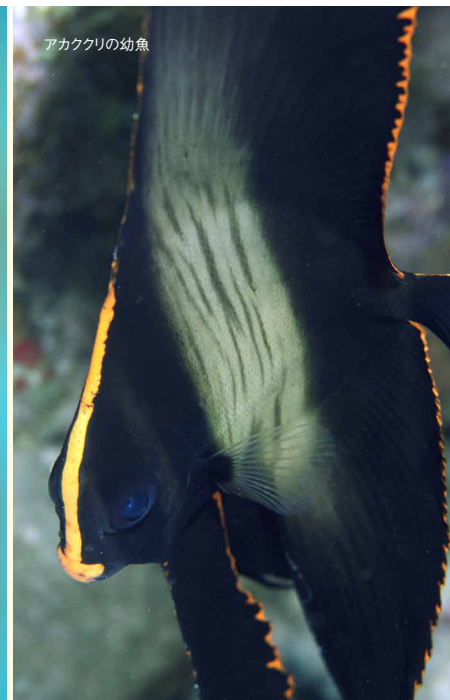
豪快さと優しさ **西表島の海に。**

WEB-LUE 2011. Spring [Iriomote Island]

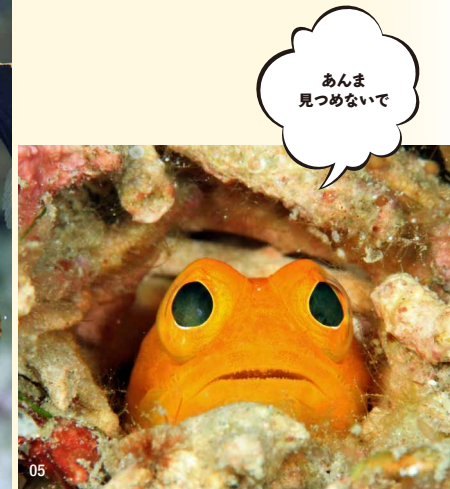


ピカチュウこと、ウデフ
リソノザヤウミウシ

流れも無く、
穏やかなポイントが多いから、
じっくりとマクロ撮影するのに
おすすめのポイントが
数多く点在している



アカククリの幼魚

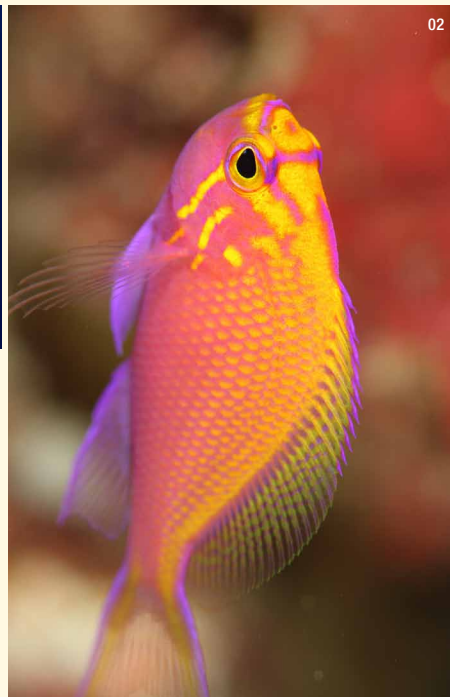


あんま
見つめないで



01

浅場でじっくり
楽しんでね



02



03



04



背びれ全開のアカネ
ハナゴイの雄

Micro マクロ

- 01, 婚姻色のスマレナ
ガハナダイ
- 02, ハナゴンベ
- 03, マンジュウイシモチ
- 04, トウモンウミコチョ
ウのペア
- 05, 黄色いジョーフィ
シュ

豪快さと優しさ **西表島の海に。**

WEB-LUE 2011. Spring [Iriomote Island]



Information Link
<http://unarizaki.com/iriomote>

← 関連情報HPへ

ヴィラうなりざき

隠れ家風リゾート、アフターダイブを快適に。この二つのコンセプトを基に、うなりざきの併設リゾートとして誕生。ビーチフロントで、敷地内は気持ちのよい芝生の緑に覆われている。家屋連れやノンダイバーにも人気のあるパティオを意識した、造り。敷地内にはイタリアンレストランがある。テレビ、クーラー、温水バス全室完備。無料WiFi利用可能。



ヤヤマホテルの時期は、春、か〜な〜り、おすすめですよ！

全てにおいて 充実したサービスと 頼もしいガイド陣

眺望の良いレストランで、仲間で食事しながら海の話を楽しもう



一緒に潜りましょう！

西表はもう夏！

62フィートの大型ダイビングクルーザーを駆使して、ダイブポイントを席巻！



遊びに
来て下さいね!!

え？ 筏でクルーザーまで移動？ 行ってみればわかります



今 回の取材でお世話になったのは、ダイビングチームうなりざき西表。西表島でも最大の規模を誇るダイビングサービスだ。ジェットエンジンを搭載した62フィート、定員はそれぞれ約40名。温水シャワー、水洗トイレを完備した大型のダイビングボート3隻と定員14名、38フィートの小型ボートの4隻を駆使して、多くのダイバーのレベルやニーズに合わせたダイビングを提供してくれる。

石 垣島に、支店を持ち、前回特集した石垣島は、うなりざき石垣店が担当してくれた。

今回メインのテーマとなった“オガン”へのダイビングも、西表島で一番多く潜りに出ているサービス。スタッフ、ボート、ホテル、ヴィラ、レストランと、全てにおいて充実したサービスを提供してくれる。機材洗い場も広く、使い易い。

イルマーレウナリザキ

2007年4月にオープンした全室オーシャンビューのダイバーズリゾート。シングルルーム22室、ツインルーム18室の全40室。一人で訪れるダイバーが多いことにも配慮している。全室、インバス、テレビ、クーラー、セーフティボックス完備。全室WiFi無料接続可能。

海を一望できる円形のレストランでは、地元の野菜をふんだんに使った料理をお手頃な値段で楽しめる。



TOPIC

季節によってリーズナブルな宿泊とダイビングのパッケージを提供中

3泊4日DIVEプラン¥34,230〜
詳細・ご予約は、うなりざき西表のWEBから
☎ <http://www.unarizaki.com/iriomote>

ダイビングチームうなりざき西表

〒907-1541 沖縄県八重山郡竹富町字上原10-172
Tel.0980-85-6146 Fax.0980-85-6844
<http://unarizaki.com/iriomote>

ショップ

Shop Info.

豪快さと優しさ **西表島の海に。**

WEB-LUE 2011. Spring [Iriomote Island]

Information Link
<http://unarizaki.com/iriomote>

関連情報HPへ